

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372900722
法人名	有限会社 やすらぎの里
事業所名	グループホーム やすらぎの里
訪問調査日	平成 20 年 10 月 17 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 12 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372900722
法人名	有限会社 やすらぎの里
事業所名	グループホーム やすらぎの里
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿島943 (電話) 0965-53-2500

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	2008年11月12日

## 【情報提供票より】(20年9月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	19 人, 非常勤 3 人, 常勤換算

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建て 1階

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	14,200 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	190 円	昼食	270 円
	夕食	290 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		750 円	

### (4) 利用者の概要(9月29日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	5名	要支援2			
年齢	平均 85.6歳	最低	67歳	最高	102歳

### (5) 協力医療機関


協力医療機関名	中村内科医院 尾田医院 和田内科医院 中村歯科医院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路に面したホーム周辺は田畑が広がる自然豊かな環境にあり、隣接の特別養護老人ホームと連携した医療体制の確立や緊急時体制の構築により入居者・家族の安心に繋げている。職員は各ユニットで毎月目標を掲げ、入居者の些細な変化も見逃さないようにと察知能力の強化や情報の共有化を図り、寄り添いのケアや個別ケアに真摯に取り組んでいることが、入居者の穏やかな表情やゆっくと落ち着いた生活ぶりに表出されている。管理者のリーダーシップのもと、看護・介護経験豊富な職員が一丸となり終末期ケアにも取組まれており、管理者・職員の意思疎通もよく、入居者・家族の思いに応えるべく日々努力されている。また、外出支援や地域との交流促進に運営推進会議が一役を担っていることも運営推進会議の資料より窺われた。“やすらぎの里”という名にふさわしい日常生活を18名の入居者と職員が共に支えあいながら過ごしている。毎月地域の“いきいきサロン”もホームで開催し地域の高齢者との交流が深まっており、更に地域の中での生活の拡充が促進されることが期待される。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の評価結果を真摯に受け止め、理念に地域密着型ホームとしての姿勢を追加したり、看板の設置や介護計画書の他記録の書式を見直し記録の充実が図られるなど具体的な改善に取り組まれている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己・外部評価を振り返りのツール、見直せる良い機会と捉えている。今回の自己評価は管理者が副長とともに作成し、介護計画作成担当者等が確認したものであり、職員の力量を知る機会、職員の教育の一環として全員で自己評価に取り組まれることを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定例化した“ざっくばらん会”と称する運営推進会議は委員へ事前に議題案内を行い、多方面からの出席を得て、ホームの現状報告や意見交換、高齢者虐待の資料をもとに勉強会したりと創意工夫した会議となっている。外部評価結果や行政の実地指導結果も取り上げ参加委員や家族への安心に繋げ、会議の決定事項が地域との交流促進や入居者の外出支援となる等具体的にホーム運営に反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や管理者の家庭訪問時が意見や要望を聞く機会と捉えおり、要望等について職員会議や運営推進会議に諮り、ホーム運営に反映させている。重要事項説明書にホーム内外の相談・苦情窓口を明示し、利用者面会リスト(個別)に意見・要望の記載欄を設ける等、意見や不満・要望を内外へ表せる機会を設けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時の声かけや隣接法人の行事での交流や地域の“いきいきサロン”を毎月ホームで開催し交流が図られ、最近ではサロン参加者がボランティアとして頻繁に訪問されている。いきいきサロン出席者が広告塔となり地域住民の訪問も増え、職員もホーム前を散歩される高齢者に声をかけたりと地域住民との交流に努めている。更に小・中学校の課外授業等の受入れ等により交流を図る意向である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針3項目とホーム理念4項目に加え、“地域の皆様との共存共栄”を追加し、運営推進会議やいきいきサロン等を通じた啓発に取組み、地域の中での生活拡充を図り、地域住民との交流の促進に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は朝礼時理念に向けた実践の方向性を示し、事例を通じて指導をしている。職員は理念を踏まえ毎月具体的な目標を掲げ検討会を開き、“何が足りない表”を作成し職員一人ひとりの思いや気づきを掲示し、管理日誌には常時志向として“利用者の生活の質の向上を追究していくこと”を記載し共通認識としており、全職員が目標を持ったケアに当たっている。ホーム玄関には大きく理念の5項目を掲示し、職員の意識付けや訪問者への啓発の一環としており、日々理念の実践に向け、真摯に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時の声かけや隣接法人の行事での交流や地域の“いきいきサロン”を毎月ホームで開催し交流が図られ、最近ではサロン参加者がボランティアとして頻繁に訪問されている。いきいきサロン出席者が広告塔となり地域住民の訪問も増え、職員もホーム前を散歩される高齢者に声かけし、地域住民との交流に努めている。更に小・中学校の課外授業等の受入れ等により交流を図る意向である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己・外部評価を振り返りのツール、見直す良い機会と捉えており、昨年度の評価結果を真摯に受け止め、理念に地域密着型ホームとしての姿勢を追加したり、看板の設置や介護計画書の他記録の書式を見直し記録の充実を図る等具体的な改善に取り組んでいる。今回の自己評価は管理者が副長とともに作成し、介護計画作成担当者等が確認したものである。	○	管理者は評価項目の一つひとつの確立こそが良いホーム運営に繋がると考えており、今後自己評価に工夫を凝らし、職員の考え方を反映させ質の向上を図る強い意向がある。職員の力量を知る機会、職員の教育の一環として全員で自己評価に取り組まれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定例化した“ざっくばらん会”と命名した運営推進会議は委員へ事前に議題案内を行い、多方面からの出席を得て、ホームの現状報告や意見交換、高齢者虐待の資料をもとに勉強会を採りいれたりと創意工夫した会議となっている。外部評価結果や行政の現地指導結果も取り上げ参加委員や家族への安心に繋げ、会議の決定事項が地域との交流促進や入居者の外出支援となる等具体的にホーム運営に反映させている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の現地指導のアドバイスを真摯に受け止め指摘事項の項目については全てに改善が図られ、情報提供を受けたり書類提出時に相談にのってもらう等行政との関係が構築している。また、生活保護受給者の相談等も行政担当者との連携を図り社協や包括支援センターとの密な連絡体制を取り、地域情報の共有化を図る等サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に暮らしぶりや健康状態等を報告し、家族の訪問状況により管理者が自宅を訪問したり、必要に応じ電話連絡を行っている。本年2月から2ヵ月毎に“やすらぎの里便り”も発行され、入居者の近況や運営推進会議への参加案内、外部評価の意義等を掲載し、家族への情報の発信源の一環としている。金銭管理については立替払いを採っている。	○	新たに“やすらぎの里便り”が作成され、家族への報告の一環となっている。職員の異動や新人職員の紹介も記載したり、ホーム内にスタッフ一覧を掲示する等により家族への周知を図られることを期待したい。又、“やすらぎの里便り”はいきいきサロン参加者にも配布されており、認知症ケアの啓発やホームでの取組み状況の発信源として大いに期待できる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や管理者の家庭訪問時が意見や要望を聞く機会と捉えおり、要望等について職員会議や運営推進会議に諮り、ホーム運営に反映させている。重要事項説明書にホーム内外の相談・苦情窓口を明示し、利用者面会リスト(個別)に意見・要望の記載欄を設ける等、意見や不満・要望を内外へ表せる機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は入居者との馴染みの職員によるケアの重要性を認識し、職員とのコミュニケーションに努めている。今年看護職員の離職による新規採用や増員によるケアの充実を図っている。入職時隣接の特老での研修期間を設け、人生経験や介護経験の豊富な職員が多く、入居者との関わりの時間を大切に落ち着いたケアが継続されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会での研修会等外部研修への参加や毎月スタッフ会議の中で成年後見制度等を取り上げたり、毎月の目標の達成や入浴介助・排泄支援等個別ケアの統一のため日々実践で指導している。また、管理者は職員にモチベーションへの効果をねらいアンケートを実施し質の高いケアに繋げ、職員も夜間の外部研修へ参加する等自己啓発に努めている。	○	職員の育成環境は整っており、今後職員の力量に応じて育成するための研修計画を立てていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し同業者との情報交換に取組み、事例検討会や意見交換・救急法の勉強会等計画を立てた研修会に職員が参加し、質の向上に取り組んでいる。管理者は八代会会の幹事を務め、ネットワーク作りに努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心と納得した上での入居とするため管理者が家庭訪問で説明をするとともに生活歴等の情報を把握するよう努めている。ホームでの生活環境に慣れてもらうため、職員が寄り添いのケアやコミュニケーション作りに努め、ホームが住処・家庭であると思ってもらうよう努力している。家族には入居者が落ち着かれるまで訪問を断ったり、個々の状態に応じ家族と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の一つである“利用者と共に泣き笑います。”をもとに、よく話をし、個々の状態を把握し、日々が有意義に過ごせるように入居者や家族等との人間関係を構築することを目標に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得た情報の他、日常の生活の中で聞きとり、発語の困難な入居者や意思表示が明確で無い場合、特に重度の入居者にはどんな詳細なことも見落とさないように気をつけ、表情やしぐさから察知しケアプランに反映させるよう検討している。入居者と職員の意思疎通を最重要とケアに当てており、押し付けの無いケアにより本人本位になるよう支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らつづける為の介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人や家族の意向の他客観的事実等把握し、本人本位の介護計画を作成している。また、季節に応じニーズを把握したり、夜間ケアの必要な入居者にはその理由の明確な記載、終末期ケアにおいては家族・医師・ホームで話し合い看取看護計画書を作成する等個別的介護プランを作成し、介護計画書もより深くケアをするために書式を変更している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には長期目標達成のための短期目標を6ヶ月とし、四半期毎に担当者会議を開催している。入退院や体調変化等見直しが必要などときには家族や担当者の意見を把握し、現状に即した介護計画となるよう努力している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診介助は全てホーム側で対応し、日々の健康管理や表情等を把握することで早期発見に繋げ、インスリンが必要な入居者に詳細な記録による確実化や医療処置を受けながらの生活が継続されている。隣接の特老の栄養管理士のアドバイスによる栄養管理や“いきいきサロン”への場所提供による地域高齢者との交流、地域の方々の相談相手としての活躍等ソフト・ハード両面から多機能性を活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談し、現在はホームの嘱託医がかかりつけ医となっており、定期的な往診を受けている。緊急時対応についての指針のもと、24時間対応可能な協力医療機関の確保等適切な医療を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議の中で看取り看護の導入を決定し、家族と話し合い最期までホームでの生活を希望される場合には“看取り看護・緊急時体制”の具体的な指針を作成し、家族より同意書を受入れ、重度化・終末期について、家族・かかりつけ医・ホーム三者で協議を重ね“看取り看護計画書”を新たに作成している。家族の希望に応じ併設の特老へ移転も可能であり、法人内の連携を図り、職員一丸となって重度化・終末期を支え、「いい人生を生きてこられたなあ」と看取り後の感想が添えられている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は守秘義務や個人情報保護について職員会議や朝礼時指導を行い、日常的に確認しモラルの向上に努めている。記録物の扱い方やホーム便りの写真等も個人情報に十分に配慮し掲載している。また、職員のトイレ誘導や傾聴する姿勢等からも尊敬の念を持ったケアの実践であることが窺われる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目標の一つに“1日々を大切に考えながら動く”を掲げ、入居者個々のペースや希望を大切にしながら支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者との会話により嗜好や食べたいものを聞き取り、管理者が毎日早朝市場に出かけ、旬の食材による季節感に配慮した食を支援している。高齢化・重度化により料理への参加は難しい状態であるが台ふき等入居者にはできることを手伝われ、職員は和やかな雰囲気配慮し個々に声かけしたり介助に徹しており、一緒に食事を味わってはいない。	○	職員は入居者の食事終了後、休息される入居者の横で食事をとっており、介助しつつ同じ時間に弁当を広げることから検討いただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には冬場は週2回、夏場は週3回の入浴となっているが、希望には随時対応し、今年の夏はシャワー浴に変更し毎日支援している。入浴を拒む入居者にはタイミングを図り何度か声かけしたり、言葉巧みに誘い、間隔が空かないよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の能力に応じ、洗濯物たたみや園芸等自然に得意分野が発揮できるよう支援している。ラジオ体操や若返り体操、輪投げ、カラオケ等多様なレクリエーションも採り入れ身体機能維持の一環とし、ドライブやピクニック等は自宅の近くや思い出の場所となっており、楽しみ毎の一つになっている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や毎週土曜日を外出の日としドライブ等が行われている。定期受診日に行きたい所を聞き希望に応じ寄り道をしたり、テラスを利用したお茶会や買物への外出等運営推進会議を転機として外出支援の強化が図られている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害を全職員が認識しており、日中は自由な出入りとなっている。役場担当者のアドバイスを受け、家族や運営推進会議で説明を行い居室の鍵を取り外している。職員は入居者の所在確認に努め、見守りや寄り添いにより出かけた様子を知り一緒に出かけた、長い廊下を歩いてもらい落着いてもらうよう支援している。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回の自主点検や年2回の避難訓練が行われている。日中は併設特別養護老人施設の協力が得られ、夜間の緊急連絡網による夜間収集訓練を行い、消防とのホットラインを設置し、まずは火を出さないことが重要であると日々火元確認に努めている。	○	今年度管理者が防火管理者資格を取得されており、消防計画書を作成し地域消防団との関係強化や地域密着として地域住民や業者等を含め訓練を行う意向であり、大いに期待できる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設の栄養管理士の協力を得、栄養摂取や便秘対応等医師や管理栄養士に相談をし食物繊維の多いメニューに変更したり補助食品による個別対応により支援している。お粥・ミキサー食や汁物にとろみを付けたり野菜も小さくカットする等個々の嚥下状態を把握した支援が行われ、一人ひとりの状況観察により適時の水分補給を促している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム入り口の看板は入居者の家族が今年新たに付けられ、開放感あふれる玄関周りには季節の花が植えられている。日中の大半を過ごすパブリックスペースは両ユニットの中央にあり、畳のコーナーには大きな仏壇が設置され、バリアフリーが徹底した環境の中、採光も良く明るい憩いの場となっている。訪問時いきいきサロンが開催され、多くの地域の高齢者が訪問されていたが、体操やレクリエーションを行うのに十分な広さである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談し使い慣れた家具やテレビ・仏壇等が持ち込まれている。クロゼットが設置されており、掃除担当者が中の整理整頓に気をつけていることが各居室のチェック表から窺われる。また、重度化に伴い車椅子やシルバーカーを使用されており、居室は整然と整頓されている。壁を利用し、写真や作品を掲示する等自分の住処として居心地良く過ごしてもらうよう職員が工夫している。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎの里
(ユニット名)	玄海灘ユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地
記入者名 (管理者)	渡邊 義晃
記入日	平成20年 9月 5日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です ) ☆はユニット共通 ★はユニット単独

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご家族、運営推進会議のメンバー、地域いきいきサロン代表及びその友人により、地域の内外に限らず当事業所の理解を深めて頂いている。 ☆	○ 左記による紹介にて施設見学引いては入所申込等も増えているが、一番有難いのは、すっかり定着したいいきいきサロン代表による慰問時に毎回違う方の来訪により更なる理解を得ていると思います。 ☆
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一、私達は利用者と共に泣き笑います。 一、私達は利用者の悩みを親身になり解決に努めます。 一、私達は利用者とは本気で付き合います。 一、私達は利用者の家族です。 一、私達は地域の皆様と共存共栄する事を強く望みます。 ☆	○ 理念の本質を具体的に掘り下げ具体的目標として各月毎に取り組んでいます。全職員に周知徹底を図っておりますが、完璧とは言えませんので継続して行ってまいります。 ☆
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の面会は個人差が伴いますが、総じて言える事は面会率は極めて良いのではないかと自負しております。面会時には必ず管理者との面談によって近況の報告及び要望等を話し合っておりますので、ご家族への安心と信頼に繋がっております。 ☆	○ 昨年度の指摘項目でありますところの近隣の小・中学校の課外授業等の実現に向けた努力が必要であり、また地域に向けての発信源と考えるならば必須項目として捉えております。管理者として実現また定着に向けて努めてまいります。 ☆
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関周りはオープンスペースに花々を飾り気軽に訪ねてもらえる環境を整えており、道を往来する地域の方々とは井戸端会議程度の会話があり、日常的なお付き合いに繋がるよう努めております。 ☆	○ 近隣の住まいの方は農家が多い為、園芸について教えて頂いたり、また利用者の散歩時は声を掛けてお話頂く等、感謝しております。 ☆
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年引き続き、いきいきサロンのメンバー並びに同サロン代表の知友人の紹介により交流の機会は増えております。 ☆	○ 近々、地元社会福祉協議会に来られるボランティアの皆さんの紹介を得る予定となっており、ここからのお付き合いの幅を大きくしていきたいと考えております。 ☆

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームに係りを持つ全ての方に広告塔をお願いしており、その成果によって老人介護全般における相談が増えており、入所申込にも繋がっております。 ☆		これまでは、様々なモーションにて地域に貢献していくような考え方であり未だ必要性は感じておりますが、実際色々な方々の紹介で相談を受ける機会が増えております。但し、ホームからの具体的施策も検討し努めてまいります。 ☆
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義については十分に理解しておりますし、年に一度ではありますが私達の仕事またその内容を改めて考え更には改善を行う、素晴らしい機会と捉えております。 ☆		現在まで過去3回における評価を受けておりますが、その度に様々な情報を頂き、即運営に反映を行い、ホーム運営の向上に確実に繋がっております。 ☆
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においては全ての評価内容を公表し、足りない部分についてはメンバーよりアドバイスを頂く等、具体的に職務に反映させております。その結果サービス提供の向上に繋がっております。 ☆		誰に何をどのように行っていくかは時折のミーティングにて説いておりますが、運営推進委員の決定事項については絶対的権限の基に良き利用者の生活に結びついております。 ☆
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年度の実地指導に基づき、様々な良きアドバイスを頂いた事に感謝しておりますし、的確な情報資料の提供または書類の提出時においては心地よく相談に応じて頂いております。 ☆	○	管理者として、地域の行事参加を行っていく事が大切だと思っておりますので積極的に情報を集め努めてまいり所存です。☆
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	あるご家族により利用者財産の処分について外出を求められた経緯があり、その時の対応が正に左記議題に関わる内容であった為、管理者としてとった対応を職員に理解してもらい周知徹底を図りました。 ☆	○	周知徹底とはいえ、詳細な部分までの理解がなされているとは思えない事から職員ミーティング等を通じて更なる理解を深めてまいります。 ☆
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	四半期に一度の割合で職員個別面接を行い実態調査を行う事によって更なる意識付けを図り、更にアンケート調査も行ってまいります。この事によって虐待等の卑劣さを常に感じ取ってくれていると信じております。 ☆		虐待の事実は判明しておりませんが、危険性のある職員にはしっかりと意識付けを行っております。 ☆

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者またはご家族の立場に立って丁寧に納得いくまで説明を行っておりますので理解は得てと考えております。 ☆	常に疑問や要望は受けており不安無きよう努めております。 ☆
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望については即取り入れ運営に反映しておりますが、要望の訴えの出来ない利用者については機微の察知にて判断しております。 ☆	○ 機微の察知能力を磨くには、もっともっと利用者への拘わりが必要であると常に指導しております。 ☆
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に近況の報告を行ってはおりますが、面会の少ないご家族については管理者がご家族宅に出向いて報告を行っております。 ☆	○ 2年前の評価時にお約束しました機関報(ホームたより)を今年からスタートさせました。2ヵ月に一度の割合で発行しホームの現状をお知らせしております。 ☆
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家庭訪問時に要望は窺うように努めており、その内容については運営推進会議や職員ミーティングに図り、運営に反映させております。 ☆	これからご家族の思いを真摯に受け止め支援してまいります。 ☆
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は週3回の当直をするシフト上、ほとんどの職員と夜勤を共にします。その時を利用して職務内外を問わず意見・提案は基より私的相談まで受けておりますので職員の機微は概ね把握できております。 ☆	良い意見や提案については副長を始めとして他職員にも相談し共有の基に反映させております。 ☆
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の都合や個性を活かしシフトに反映させると共に職務上においても利用者の状況に合わせて役割分担している。 ☆	ご家族の要望については、全職員ご家族とは親しい関係が構築されている為、特別な配慮は講じておりません。 ☆
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者として利用者に職員の苦情等を聞き、日々の介護に反映しておりますが、移動による悪影響は出ておりません。 ☆	常に認知症介護に適した方の採用を心掛けております。 ☆

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者兼務管理者でありますので、育成の大まかな指針は副長と共に考えますが、実働面での詳細な指導に至っては副長に一任しており、それでもモチベーション等が足りない場合に関し管理者が姿勢について説いております。 ☆	○ 一日一日を大切に過ごす事の徹底を促すのと計画や目的を踏まえて動く実働で介護力の進歩に繋げようと考え指導に当たっております。 ☆
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH八代部会の幹事を務めております関係上、交流会の立案から実行まで行わせて頂いておりますが、他事業所の職員さんからの情報も特に役にたっており、また同部会で開催される目的を持った研修にも積極的に出席を促しております。 ☆	同部会の管理者会合時に相互訪問以上の実働を加えようかとの案件がありましたが、反対意見もあり実現しておりません。但し相互訪問はどの事業所もいつでも大歓迎で行われております。☆
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みに伴う機微の状態は決してそらす事はありません。ストレスは直利用者の生活に反映しますので特に危ないと感じた時は即面接を行い気分よく仕事できるように導いております。 ☆	仕事を通じて全職員で達成感を沢山味わい本物のコミュニケーション作りを目指しております。たまには職員に尋ねますが私のストレスは誰が解消してくれるの？ 職員の答えは奥さんにやってもらって下さいですって、笑ってしまいます。 ☆
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	実績状況は常に把握しているつもりで、更なるモチベーションも加え時折の動機付けも逃す事無く行っております。報酬への反映も併せて行っております。 ☆	やる気を欠かないよう、常に平等で暖かい目で見守っております。 ☆
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談ができる、訴えができる利用者からはもちろん時々の要望に応じておりますが、それができない利用者に関しては機微の察知により気配り・配慮しております。 ☆	出来得る限り利用者要望の的を外さないよう心掛けております。 ☆
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	前項の幾つかと重複しますが聞く機会はこちらからご家族宅に出向いてまで作っておりますし、納得いく・満足いくまで相談を受け付けております。 ☆	現在、これ以上の苦情を含んだ要望はありませんので現在の行動が機能していると思われれます。 ☆

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望される見極めも重点的に的外さないように心掛けておりますが、具体的に納得されるまで腹を割って相談を受けております。 ☆		副長及びその日の出勤者に図り、即反映させております。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでの生活に自然に慣れて馴染みを感じて頂くようコミュニケーション作りの発端としては全職員が積極的に介入しております。ご家族にも報告・相談を行い安心頂いております。 ☆		利用者にとっては、ここが唯一の住処・家庭である認識の基に努力しております。 ☆
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の文言の内容にあるように利用者やその家族と共に痛みや喜びを共にするよう指導を行ってまいりましたし、これからは更に深い人間関係を構築していく事を目標にしております。 ☆		一日一日が少しでも有意義であるようなサービス提供を心掛け努めております。 ☆
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の立場に立って、要望・相談を受けており、それを反映させた結果についても報告を欠かさないよう努めております。 ☆		その結果がご家族としての安心に反映し、安定した生活に繋がっていると思います。 ☆
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	管理者として利用者の状況や只今の機微をお知らせした上での面会である為、そこに不安材料に基づくトラブルの発生はありません。 ☆		一部利用者のご家族が生活保護や年金を使い込んでいらっしゃる事実が判明しており、福祉事務所と共同で解決に努めております。世の中にはいろいろな方がいらっしゃいますが、その都度利用者の精神状態が悪くなっており、現在思案中であります。 ★
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人物については面会や手紙等で補い、場所についてはドライブや思い出話等の会話によって成り立っております。 ☆		ホーム外の活動を更に増やしていくよう努めております。 ☆
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のコミュニケーションについては職員が率先して介入しており、認知症の程度に合わせてグループ化されております。 ☆		コミュニケーションが苦手な利用者については職員が根気強く声掛けを行いレクリエーション等の参加を促しております。 ☆

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	私達が携わった利用者やご家族に対しては定期的に連絡を取り相談を受けたりしております。 ☆		他の事業所の紹介、特に併設の特別養護老人ホームの紹介に基づいてご案内を行っております。 ☆
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の嗜好に併せた要望を必須として取り入れておりますが、重度者については機微の把握に努めております。		要望の繁栄は当然ながら、その的外さないよう、利用者の気持ちを逸らさないよう努めております。 ☆
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や前入居施設のサマリー、更には前担当ケアマネージャーを介して詳細把握に努めております。 ☆		利用者個々の心地よい暮らしを重点的に配慮しております。☆
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の能力を十分把握した上でのサービス提供を考え行っております。 ☆		日々状況が変化しますので、それに対応できるよう心掛けております。 ☆
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を設けるまでに、ご家族の要望や担当職員の意見そして利用者の要望・状態を周知した後、明確な反映に繋げております。 ☆	○	ケアプランを立てるに至るまでの間、既に必要な情報を習得しており、担当者会議においても説得力のある内容である為、連鎖性が窺え、非常に助かっております。会議の進行状況も極めてスムーズであります。 ★
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね四半期に一度の見直し会議を行っていますが、それ以外にも体調急変者であった場合も含め関係各位の意見を反映させ介護計画としております。 ☆		計画作成担当者を副長が兼務している関係上、利用者の詳細まで熟知しておりますので、今後のケアについて更なるサービス提供を加えていけるよう常時相談を重ねております。 ★



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアについては個別に介護サービス記録に記録し、介護記録の見直しに活用しております。 ☆	○	詳細な記録について個人差(職員)があるので記入の足りない者に対しては注意を促しております。 ☆
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望については出来得る限りの期待に沿うよう柔軟な対応を行っているので多機能性は活かされていると思います。 ☆		多機能性にふさわしい環境整備を改めて考慮する必要があるかも知れません。 ☆
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用については少しずつの進歩が図られていますが、全ての協力体制の構築には至っておりません。 ☆	○	管理者の地域活動への積極的な参加により資源の輪を広げていく必要があると考えております。 ☆
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地元の社会福祉協議会や居宅支援事業所及び他事業所のケアマネジャーの来訪が多くなつてまいりました。その際、利用者のケアについて様々な相談に乗ってもらっております。それ以外にも認知症の方を抱えるご家族の紹介も頂いております。 ☆		他のサービスについての要望は別途ありませんので、当ホーム単独でのサービス提供の幅を大きくしていこうと考えております。☆
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーに包括支援センターの社会福祉士がいらっしゃいますのでアドバイスを頂きながら協働・補完に努めております。 ☆		課題を共有し、親身になって取り組んで頂いておりますので、心強く思い感謝致しております。 ☆
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とも相談の上、全ての利用者に当ホームの嘱託医がかかりつけ医として利用しており、緊急時においても適切な判断の下、適時に対応ができております。 ☆		医療面における連携体制については確実に構築されており、利用者またはご家族から絶大な信頼を得ております。 ☆

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>利用者の6割は心療内科受診により、認知症緩和の治療にも接しているが他利用者についてはご家族の反応も鈍く何も講じていない現状にあります。 ☆</p>		<p>関連する研修には多回数参加しておりますが、明確な治療法は無いと認識しております。従ってホームとしての役割の中で認知症の進行を緩和する役目を果たしていければと思っております。☆</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>職員に準看護師がおりますのと併設特養の看護師長により全ての利用者の体況の把握がなされており適切な健康管理がなされております。 ☆</p>		<p>日々、利用者のバイタルや様子観察を行い看護師・嘱託医に報告を行い、健康管理に努めております。 ☆</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>利用者が入院された場合、管理者として週に3回以上の面会や看護師長または担当医より詳細な情報を提供してもらい、体調回復と早期退院に努めております。 ☆</p>		<p>最近では、療養等を備えている病院でも当ホームの規程を把握して頂いておりますので、それを考慮の上、治療に当たってもらっております。 ☆</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>看取り介護を導入して1年以上経過しておりますが、計画書を作成する際、ご家族・かかりつけ医・ホームの3者による協議を行っておりますので当然の事ながら方針は共有されております。 ☆</p>		<p>ご家族の要望は全て反映されており、終末期に差し掛かった場合でも信頼を基に任されております。 ☆</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>重度化のプロセスの中で嘱託医を含めた役割を具体化し支援するよう努めております。終末期になられた利用者に関しては、そのプロセスの一環として更に検討相談を行い、どのような変化にも対応できるよう取り組んでおります。 ☆</p>		<p>併設特老の看護師長を始めとする協力体制が整っております。☆</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>住み替えが必要な利用者が発生した場合、ご家族を含む関係者各位との情報の公開または共有を行い、出来得る限り本人にダメージが少ないよう配慮しております。 ☆</p>	○	<p>身体能力の維持が出来るよう日々努力しておりますが、ご高齢である為、緩やかには落ちていかれる傾向にあります。寝たきり者を出した場合には別ユニットに変更し介助に当たる事も視野に入れ取り組んでおります。 ★</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症の利用者とはいえ、個人の尊厳は必須且つ保たなければならない一番大切なパフォーマンスであると考え指導しておりますので記録の取り扱いも含め、プライバシーは確保されております。☆	職員ミーティング等で守秘義務や個人情報保護について説いております。 ☆
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症の程度に併せた介助、それに伴う会話がなされており機微の察知を含め努力しながら支援に当たっております。 ☆	的を外さないよう、今後もより一層の拘りが必要だとの指示を常に促しております。 ☆
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム日課や職員都合によつての生活は極力強い心掛けておりますが、緊急時や危険が伴う場合にはやむを得ない場合もあります。しかしながら希望に沿う形での暮らしは提供出来ていると思います。 ☆	我々も自分の希望が叶わないと若干のストレスを感じてしまいます。出来る限りそのような状況は作らないよう努めております。☆
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみに関しては本人の嗜好に沿って支援しております。理美容においては美容師の出張以来によって取り行っております。☆	○ こだわりの強い利用者に関してはご家族に相談し馴染みの店舗に言って頂くよう支援しております。 ☆
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理については併設特老の管理栄養士に手伝って頂いてますが、食の楽しみについては管理者が毎日早朝市場の競りに出かけますので利用者の嗜好や要望には答えられて自負しております。 ☆	何が食べたいですか?とよく尋ねますが、そんな会話の中から、または旬の食材の中から季節を感じて頂いております。 ☆
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご利用者一人ひとりの好き嫌いは概ね把握しており、それに沿った形で嗜好の楽しみに繋げております。 ☆	○ おやつに関しては去年に引き続き統一されている事に対して改善出来ていないので工夫を加えていきたいと考えております。☆

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の機能を十分に把握した上で排泄パターンに反映しております。特にオムツ等の使用については最大限まで介助力を活かし使用しない努力を行っております。 ☆		排泄パターンは職員間で情報共有の基、定期的なトイレ誘導にて適時にに行っております。 ☆
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には冬場は週2回・夏場は週3回と定めているも希望者については随時受け付けており、希望に沿って利用頂いております。☆		入浴が嫌いな利用者もいらっしゃるので、言葉巧みに誘うか、それが通じない場合は頼み込んで入ってもらっております。 ☆
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間はあるも、その日に応じて休みたくない利用者についてはTV鑑賞よりも会話をし安心して休んで頂いております。☆		安眠を確保して頂く為、お昼寝が長くならないよう軽作業やレクリエーション等で充実した日中を過ごしてもらうよう努めております。☆
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力に応じて洗濯物たたみや園芸等の軽作業を行って頂いておりますが、これについても決して強制するものではありません。レクリエーションについては利用者の要望を反映させながら楽しんで頂いております。 ☆		定期的に行っているドライブやピクニック等は馴染み深い思い出の場所や自宅の近所など良い刺激が得られ、更には記憶が蘇るような支援を心掛けております。 ☆
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金についての能力がおありになる方に限ってご家族からお預かりをし、必要な時に使って頂いております。他の利用者に関してはご家族にご依頼し要望に答えるようにしております。 ☆		外出時における買い物や外食の回数を増やす努力をしております。 ☆
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課である散歩や定期的なドライブ・ピクニック等はもちろんながら定期受診の際、行ってみたい希望を聞き、出来る限り期待に沿えるよう努めております。 ☆		日々、利用者との会話内容を記憶に留めておき、次回の外出に反映させております。ただ、立地条件が畑の中でありますので一寸した買い物とかが不便で生活範囲が狭くなるような感覚になりがちですので、そういった部分も配慮し外出支援に努めております。☆
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	他回答と重複しますが、行ってみたい所については日々の会話の中から察知し、それに応じておりますが、ご家族にも報告しお手伝い戴いているケースも多々あります。 ☆		利用者全般に言える事は、面会が多いといった事があり、その時々において要望を伝え叶えて頂くようお願いしております。 ☆

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症の程度によって異なりますが、能力のある方は電話の使用はいつでも可能な状態にしておりますし、手紙についても同じく便箋等々も購入して頂き支援しております。 ☆		電話については相手方に迷惑の掛からない時間を選び使用して頂いておりますが、たまに30秒も話さず切られた時はとても可哀そうに思えますので、また機会を見て掛け直そうねとフォロー致しております。 ☆
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるように心掛けておりますし、面会者の印象としては入りやすいと好評を戴いております。また面会の際も全職員が気兼ねなく話せるよう指導を徹底してしますので居心地についても問題ないと思います。 ☆		多少の個人差は伴いますが、当ホームの面会率は高いので職員とも仲良くして頂いております。 ☆
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準に対する細かい文言の一つ一つまでは理解しておりませんが、拘束が最も禁じ得る行為である理解はなされております。 ☆		定期的な個人面接や意識調査を行い拘束に対する意識付けのニード換気を強めております。 ☆
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	さすが夜間帯においてはホームの鍵は閉めておりますが日中は何処からでも入ってこれる、または出ていけるよう全てオープンにしております。 ☆		役場の担当職員よりアドバイスを受け、居室の鍵を使用した事はなかったのですが、拘束と勘違いされる可能性を示唆し全て排除しております。 ☆
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守りは徹底されており、利用者の安心した暮らしに繋がっているものと確信しております。また、プライバシーについても気配りはなされており自尊心を傷つけるものではありません。 ☆		ともかく危険な状態及び環境に晒すわけにはいきませんので見守りの強化を図り、強制的な意味合いを緩和しております。 ☆
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	この件があつたので利用者が居室不在時において鍵は必要であったのですが、前項の事由で排除しております。ただ、危険な物品については管理室に置く等の環境整備を行っております。 ☆		何れにしても利用者全員が貴重品を持ち合わせておらず大事には至っておりません。これも見守りの徹底がなされているからだと思っております。 ☆
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	出題の全項目において経験により学習しておりますが、火災については経験がありませんので併設社福の訓練に参加し有事に備えております。 ☆		合同訓練では意味が薄れると感じており、単独訓練をお行おうと考えております。 ☆

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医療、特に緊急時対応はマニュアル化されており、これまでの多回数の経験も活かされ確立されていると思います。☆		併設特老看護師長と嘱託医との信頼関係による繋がりが十二分に発揮されていると思います。☆
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中は併設特老職員の協力を得るようになっており、夜間には緊急連絡網にて全職員が即駆けつけるのとご近所の皆さん、更には地域消防団の協力を仰ぐ事となっております。消防についてはホットラインも設置しており有事に備えております。☆	○	具体的な地域の協力を得ながらの単独訓練が必要であると考えたと共にそのものの計画を立案し実行に移したいと思っております。☆
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者個々に起こり得るリスクについてはケアプランに明記されると共に、それ以外でも状況に併せてご家族に説明を加えております。☆		強制を行わずリスク解消を行う為に機微を察知しながら見守り優しく誘導できるよう努めております。☆
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	当然ながら利用者のご高齢であるので、出来る限り少々であっても体調変化を見逃さないように努めており、その後は医療連携にて双方の安心に繋げております。☆		情報の共有についても徹底しており、利用者個々の変化には敏感に対応できております。☆
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬については管理表を作成し利用者間での間違いや飲み合わせ等について看護師職員が詳細に管理しております。更には介護主任によって再チェックを行い完璧化を目指し努めております。☆		服薬については利用者個々の能力に応じて介助されておりますが利用者全員に見守り確認を行っております。☆
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便通においては管理表にてチェックを行い、主治医に相談の上、便秘薬処方や併設特老の管理栄養士に仰ぎ食物繊維の多いメニューに変更する等、体調管理の一端として位置付け取り組んでおります。☆		排便が順調になるまで徹底して支援を行っております。☆
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者個々のレベルに合わせてケアを行っておりますが、漏れがないようチェック表を作成し確認を行っております。☆		特に入れ歯の方が大半を占めるので、詳細に配慮し介助に当たっております。☆

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については併設特老の管理栄養士の協力をえており、更には体調不良者については主治医と相談の上、補助食品の摂取を行っております。水分摂取については各職員が利用者の状況観察を行いながら適時に補給をさせていただきます。 ☆	体調管理と共に食に関する事には神経を尖らせ管理に努めております。 ☆
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の疑いのある利用者については本人またはご家族に説明を行い、完治するまでの間居室にて経過して頂いております。また、担当職員については接する度消毒を義務付けております。 ☆	居室にての生活がストレスとならないよう、拘束に繋がらないよう声掛けを頻繁に行う配慮に努めております。 ☆
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品管理については毎朝市場に仕入れに行ってる事から、衛生管理も含め新鮮な食材を提供出来ていると自負しておりますし、調理時に限らず職員の衛生管理、特に手洗いの徹底を義務付けている以上、食中毒の可能性も無いと判断しております。 ☆	食材の徹底洗浄、また仕入れ時の新鮮度には特に注意を払っております。 ☆
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	開放感ある趣を構築してきたつもりであって玄関周りに限らず常にオープンな体制を取っております。利用者と一緒に育てた花々を飾り安心して訪ねて頂ける環境にしております。 ☆	裏庭の芝生が生き付いてきており、利用者の憩いの場が増え喜んでおります。 ☆
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に限らず清潔第一をモットーとしておりますので異臭等が無く快適に経過して頂いておりますし、生活感や季節感を醸し出す工夫としてレクリエーション担当者と利用者が月毎に掲示物を作成し楽しんでおります。 ☆	○ 誕生日には記念撮影を行い誕生プレートを掲示、利用者には喜んで頂いております。更に明るい環境を試行錯誤を行いながら取り組んでおります。 ☆
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際の利用者個々の席については認知症の程度に応じて振り分けておりますが、コミュニケーションを広げたい観点から時折席替えを行い工夫しております。 ☆	コミュニケーションの苦手な利用者については特に配慮し食事以外でも着席場所には注意を払い支援しております。 ☆

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には持ち込みは事由としていますが、ご家族からの相談等で馴染み深い物品については特に置いて頂いております。但し、これも個人差があり極端に殺風景な部屋もありますが過ごしやすいよう特にレクリエーション担当職員が工夫しております。☆		殺風景に思われる居室については過ごしやすいよう、または馴染めるよう工夫を凝らし掲示物を取り入れたりしておりますし、ご家族とも相談を行い住まいが演出できるよう努めております。☆
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホーム内においては換気・エアコン共完備していますが、異臭については方針の一端として極めて嫌う項目である為、掃除・換気徹底には特段の配慮を行っております。温度調節にも特に気配りを行い常に28度前後をキープしております。☆		朝一番の掃除タイムには、居室全ての窓を開け換気を行いながら保清に努めており、利用者のより良い生活環境を整えております。☆
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てにおいてバリアフリーの構造となっており通路に至っては手すりも設け自立を支援出来得る体制となっているが、活用の際に職員の見守り・誘導も効果的であります。☆		利用者個々の身体能力に応じて生活介助の中で機能回復に繋がるような訓練を励行しております。☆
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者個々の身体能力及び認知症のレベルについては把握しており、出来る事出来ない事の線引きを明確にして日々の介護に当たっております。☆		具体的には、居室・洗面所・浴室・トイレ等への移動の際は、声掛け励ましを行うであるとか、椅子やベット等への移乗の際も見守りを行いながら介助しております。☆
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りで特に変化があったのは裏庭の芝生が生え揃い、憩いの場が増えたという事ですが、他には園芸でありますとか散歩でありますとか楽しんで頂いております。☆	○	季節によっては寒すぎるまた暑すぎる時がありますが、この時期が利用者の皆さんほとんどが動こうとしないので、妙なストレスが溜まらないか心配しております。☆



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開所より特別養護老人ホーム併設型の利点を活かし医療面における看護師・嘱託医との連携体制が確立されており利用者また利用者のご家族から信頼を得ておりますが、その事に甘んじず緊急時等の経験を重ねる度に更なる充実を図っております。同時に清潔をモットーとしておりますので、利用者の身の回りの保清または居室を含む館内の掃除を徹底しており利用者の皆様には快適に過ごして頂ける環境を整えております。昨年後半より利用者へのサービス提供を改めて考慮しており、月間ごとに様々な分野にて目標を定め、利用者の機微の察知能力の向上を全職員が

共有し取り組んでおります。特にグループホームのホームの名の示しますような家庭的雰囲気構築に力を注いでおり、先ずは職員個々が、その雰囲気を醸し出せるよう夫々に工夫を凝らし頑張っております。このユニットに関しては比較的身体能力が維持出来ておりますので利用者相互のコミュニケーションに重点を置き日々の生活においてトラブルが起きないように配慮しております。但し一部寝たきり者がいらっしゃいますので有明と居室変更を考えております。

利用者の生活においては館外の活動を重点的に配慮しており、これからも継続して行ってまいります。利用者のADL・認知症の程度によって個人差が生じますので全員に講じている訳ではありません。外出の出来ない利用者のサービス提供についても職員ミーティング及び運営推進会議等で検討模索中であります。従いまして総じて重点項目としておりますのは、利用者も職員も一日一日を大切に過ごしていく事にあります。私達が利用者個々に対して、何をしてあげられるか、またどこまでしてあげられるのか。QOLを本気で考え、日々の生活に反映し、定着していけますよう鋭意努力を行ってまいります。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎの里
(ユニット名)	有明海ユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地
記入者名 (管理者)	渡邊 義晃
記入日	平成20年 9月 5日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です ) ☆はユニット共通 ★はユニット単独

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご家族、運営推進会議のメンバー、地域いきいきサロン代表及びその友人により、地域の内外に限らず当事業所の理解を深めて頂いている。 ☆	○	左記による紹介にて施設見学引いては入所申込等も増えているが、一番有難いのは、すっかり定着したいいきいきサロン代表による慰問時に毎回違う方の来訪により更なる理解を得ていると思います。 ☆
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一、私達は利用者と共に泣き笑います。 一、私達は利用者の悩みを親身になり解決に努めます。 一、私達は利用者とは本気で付き合います。 一、私達は利用者の家族です。 一、私達は地域の皆様と共存共栄する事を強く望みます。 ☆	○	理念の本質を具体的に掘り下げ具体的目標として各月毎に取り組んでいます。全職員に周知徹底を図っておりますが、完璧とは言えませんので継続して行ってまいります。 ☆
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の面会は個人差が伴いますが、総じて言える事は面会率は極めて良いのではないかと自負しております。面会時には必ず管理者との面談によって近況の報告及び要望等を話し合っておりますので、ご家族への安心と信頼に繋がっております。 ☆	○	昨年度の指摘項目でありますところの近隣の小・中学校の課外授業等の実現に向けた努力が必要であり、また地域に向けての発信源と考えるならば必須項目として捉えております。管理者として実現また定着に向けて努めてまいります。 ☆
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関周りはオープンスペースに花々を飾り気軽に訪ねてもらえる環境を整えており、道を往来する地域の方々とは井戸端会議程度の会話があり、日常的なお付き合いに繋がるよう努めております。 ☆		近隣の住まいの方は農家が多い為、園芸について教えて頂いたり、また利用者の散歩時は声を掛けてお話頂く等、感謝しております。 ☆
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年に引き続き、いきいきサロンのメンバー並びに同サロン代表の知友人の紹介により交流の機会は増えております。 ☆	○	近々、地元社会福祉協議会に来られるボランティアの皆さんの紹介を得る予定となっており、ここからのお付き合いの幅を大きくしていきたいと考えております。 ☆

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームに係りを持つ全ての方に広告塔をお願いしており、その成果によって老人介護全般における相談が増えており、入所申込にも繋がっております。 ☆		これまでは、様々なモーションにて地域に貢献していくような考え方であり未だ必要性は感じておりますが、実際色々な方々の紹介で相談を受ける機会が増えております。但し、ホームからの具体的施策も検討し努めてまいります。 ☆
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義については十分に理解しておりますし、年に一度ではありますが私達の仕事またその内容を改めて考え更には改善を行う、素晴らしい機会と捉えております。 ☆		現在まで過去3回における評価を受けておりますが、その度に様々な情報を頂き、即運営に反映を行い、ホーム運営の向上に確実に繋がっております。 ☆
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においては全ての評価内容を公表し、足りない部分についてはメンバーよりアドバイスを頂く等、具体的に職務に反映させております。その結果サービス提供の向上に繋がっております。 ☆		誰に何をどのように行っていくかは時折のミーティングにて説いておりますが、運営推進委員の決定事項については絶対的権限の基に良き利用者の生活に結びついております。 ☆
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年度の実地指導に基づき、様々な良きアドバイスを頂いた事に感謝しておりますし、的確な情報資料の提供または書類の提出時においては心地よく相談に応じて頂いております。 ☆	○	管理者として、地域の行事参加を行っていく事が大切だと思っておりますので積極的に情報を集め努めてまいり所存です。☆
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	あるご家族により利用者財産の処分について外出を求められた経緯があり、その時の対応が正に左記議題に関わる内容であった為、管理者としてとった対応を職員に理解してもらい周知徹底を図りました。 ☆	○	周知徹底とはいえ、詳細な部分までの理解がなされているとは思えない事から職員ミーティング等を通じて更なる理解を深めてまいります。 ☆
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	四半期に一度の割合で職員個別面接を行い実態調査を行う事によって更なる意識付けを図り、更にアンケート調査も行ってまいります。この事によって虐待等の卑劣さを常に感じ取ってくれていると信じております。 ☆		虐待の事実は判明しておりませんが、危険性のある職員にはしっかりと意識付けを行っております。 ☆

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者またはご家族の立場に立って丁寧に納得いくまで説明を行っておりますので理解は得てと考えております。 ☆	常に疑問や要望は受けており不安無きよう努めております。 ☆
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望については即取り入れ運営に反映しておりますが、要望の訴えの出来ない利用者については機微の察知にて判断しております。 ☆	○ 機微の察知能力を磨くには、もっともっと利用者への拘わりが必要であると常に指導しております。 ☆
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に近況の報告を行ってはおりますが、面会の少ないご家族については管理者がご家族宅に出向いて報告を行っております。 ☆	○ 2年前の評価時にお約束しました機関報(ホームたより)を今年からスタートさせました。2ヵ月に一度の割合で発行しホームの現状をお知らせしております。 ☆
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家庭訪問時に要望は窺うように努めており、その内容については運営推進会議や職員ミーティングに図り、運営に反映させております。 ☆	これからご家族の思いを真摯に受け止め支援してまいります。 ☆
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は週3回の当直をするシフト上、ほとんどの職員と夜勤を共にします。その時を利用して職務内外を問わず意見・提案は基より私的相談まで受けておりますので職員の機微は概ね把握できております。 ☆	良い意見や提案については副長を始めとして他職員にも相談し共有の基に反映させております。 ☆
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の都合や個性を活かしシフトに反映させると共に職務上においても利用者の状況に合わせて役割分担している。 ☆	ご家族の要望については、全職員ご家族とは親しい関係が構築されている為、特別な配慮は講じておりません。 ☆
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者として利用者に職員の苦情等を聞き、日々の介護に反映しておりますが、移動による悪影響は出ておりません。 ☆	常に認知症介護に適した方の採用を心掛けております。 ☆

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者兼務管理者でありますので、育成の大まかな指針は副長と共に考えますが、実働面での詳細な指導に至っては副長に一任しており、それでもモチベーション等が足りない場合に関し管理者が姿勢について説いております。 ☆	○ 一日一日を大切に過ごす事の徹底を促すのと計画や目的を踏まえて動く実働で介護力の進歩に繋げようと考え指導に当たっております。 ☆
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH八代部会の幹事を務めております関係上、交流会の立案から実行まで行わせて頂いておりますが、他事業所の職員さんからの情報も特に役にたっており、また同部会で開催される目的を持った研修にも積極的に出席を促しております。 ☆	同部会の管理者会合時に相互訪問以上の実働を加えようかとの案件がありましたが、反対意見もあり実現しておりません。但し相互訪問はどの事業所もいつでも大歓迎で行われております。☆
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みに伴う機微の状態は決してそらす事はありません。ストレスは直利用者の生活に反映しますので特に危ないと感じた時は即面接を行い気分よく仕事できるように導いております。 ☆	仕事を通じて全職員で達成感を沢山味わい本物のコミュニケーション作りを目指しております。たまには職員に尋ねますが私のストレスは誰が解消してくれるの？ 職員の答えは奥さんにやってもらって下さいですって、笑ってしまいます。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	実績状況は常に把握しているつもりで、更なるモチベーションも加え時折の動機付けも逃す事無く行っております。報酬への反映も併せて行っております。 ☆	やる気を欠かないよう、常に平等で暖かい目で見守っております。 ☆
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談ができる、訴えができる利用者からはもちろん時々の要望に応じておりますが、それができない利用者に関しては機微の察知により気配り・配慮しております。 ☆	出来得る限り利用者要望の的を外さないよう心掛けております。 ☆
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	前項の幾つかと重複しますが聞く機会はこちらからご家族宅に出向いてまで作っておりますし、納得いく・満足いくまで相談を受け付けております。 ☆	現在、これ以上の苦情を含んだ要望はありませんので現在の行動が機能していると思われれます。 ☆

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望される見極めも重点的に的外さないように心掛けておりますが、具体的に納得されるまで腹を割って相談を受け付けております。 ☆		副長及びその日の出勤者に図り、即反映させております。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでの生活に自然に慣れて馴染みを感じて頂くようコミュニケーション作りの発端としては全職員が積極的に介入しております。ご家族にも報告・相談を行い安心頂いております。 ☆		利用者にとっては、ここが唯一の住処・家庭である認識の基に努力しております。 ☆
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の文言の内容にあるように利用者やその家族と共に痛みや喜びを共にするよう指導を行ってまいりましたし、これからは更に深い人間関係を構築していく事を目標にしております。 ☆		一日一日が少しでも有意義であるようなサービス提供を心掛け努めております。 ☆
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の立場に立って、要望・相談を受けており、それを反映させた結果についても報告を欠かさないよう努めております。 ☆		その結果がご家族としての安心に反映し、安定した生活に繋がっていると思います。 ☆
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	管理者として利用者の状況や只今の機微をお知らせした上での面会である為、そこに不安材料に基づくトラブルの発生はありません。 ☆		利用者ご家族の関係は良好であります。 ★
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人物については面会や手紙等で補い、場所についてはドライブや思い出話等の会話によって成り立っております。 ☆		ホーム外の活動を更に増やしていくよう努めております。 ☆
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のコミュニケーションについては職員が率先して介入しており、認知症の程度に合わせてグループ化されております。 ☆		コミュニケーションが苦手な利用者については職員が根気強く声掛けを行いレクリエーション等の参加を促しております。 ☆



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	私達が携わった利用者やご家族に対しては定期的に連絡を取り相談を受けたりしております。 ☆		他の事業所の紹介、特に併設の特別養護老人ホームの紹介に基づいてご案内を行っております。 ☆
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の嗜好に併せた要望を必須として取り入れておりますが、重度者については機微の把握に努めております。		要望の繁栄は当然ながら、その的外さないよう、利用者の気持ちを逸らさないよう努めております。 ☆
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や前入居施設のサマリー、更には前担当ケアマネージャーを介して詳細把握に努めております。 ☆		利用者個々の心地よい暮らしを重点的に配慮しております。☆
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の能力を十分把握した上でのサービス提供を考え行っております。 ☆		日々状況が変化しますので、それに対応できるよう心掛けております。☆
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を設けるまでに、ご家族の要望や担当職員の意見そして利用者の要望・状態を周知した後、明確な反映に繋げております。 ☆	○	計画作成担当者の利用者への拘りを強化し状況把握がいつでも瞬時に行えるよう指導していきたいと考えております。★
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね四半期に一度の見直し会議を行っていますが、それ以外にも体調急変者であった場合も含め関係各位の意見を反映させ介護計画としております。 ☆		機会がある毎に、計画作成担当者とは利用者の事について状況把握を行い意識を集中できるよう意識付けを行っております。★

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアについては個別に介護サービス記録に記録し、介護記録の見直しに活用しております。 ☆	○	詳細な記録について個人差(職員)があるので記入の足りない者に対しては注意を促しております。 ☆
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望については出来得る限りの期待に沿うよう柔軟な対応を行っているので多機能性は活かされていると思います。 ☆		多機能性にふさわしい環境整備を改めて考慮する必要があるかも知れません。 ☆
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用については少しずつの進歩が図られていますが、全ての協力体制の構築には至っておりません。 ☆	○	管理者の地域活動への積極的な参加により資源の輪を広げていく必要があると考えております。 ☆
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地元の社会福祉協議会や居宅支援事業所及び他事業所のケアマネジャーの来訪が多くなつてまいりました。その際、利用者のケアについて様々な相談に乗ってもらっております。それ以外にも認知症の方を抱えるご家族の紹介も頂いております。 ☆		他のサービスについての要望は別途ありませんので、当ホーム単独でのサービス提供の幅を大きくしていこうと考えております。☆
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーに包括支援センターの社会福祉士がいらっしゃいますのでアドバイスを頂きながら協働・補完に努めております。 ☆		課題を共有し、親身になって取り組んで頂いておりますので、心強く思い感謝致しております。 ☆
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とも相談の上、全ての利用者に当ホームの嘱託医がかかりつけ医として利用しており、緊急時においても適切な判断の下、適時に対応ができております。 ☆		医療面における連携体制については確実に構築されており、利用者またはご家族から絶大な信頼を得ております。 ☆

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>利用者の6割は心療内科受診により、認知症緩和の治療にも接しているが他利用者についてはご家族の反応も鈍く何も講じていない現状にあります。 ☆</p>	<p>関連する研修には多回数参加しておりますが、明確な治療法は無いと認識しております。従ってホームとしての役割の中で認知症の進行を緩和する役目を果たしていければと思っております。☆</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>職員に準看護師がおりますのと併設特養の看護師長により全ての利用者の体況の把握がなされており適切な健康管理がなされております。 ☆</p>	<p>日々、利用者のバイタルや様子観察を行い看護師・嘱託医に報告を行い、健康管理に努めております。 ☆</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院された場合、管理者として週に3回以上の面会や看護師長または担当医より詳細な情報を提供してもらい体調回復と早期退院に努めております。 ☆</p>	<p>最近では、療養等を備えている病院でも当ホームの規程を把握して頂いておりますので、それを考慮の上、治療に当たってもらっております。 ☆</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取り介護を導入して1年以上経過しておりますが、計画書を作成する際、ご家族・かかりつけ医・ホームの3者による協議を行っておりますので当然の事ながら方針は共有されております。 ☆</p>	<p>ご家族の要望は全て反映されており、終末期に差し掛かった場合でも信頼を基に任されております。 ☆</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化のプロセスの中で嘱託医を含めた役割を具体化し支援するよう努めております。終末期になられた利用者に関しては、そのプロセスの一環として更に検討相談を行い、どのような変化にも対応できるよう取り組んでおります。 ☆</p>	<p>併設特老の看護師長を始めとする協力体制が整っております。☆</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えが必要な利用者が発生した場合、ご家族を含む関係者各位との情報の公開または共有を行い、出来得る限り本人にダメージが少ないよう配慮しております。 ☆</p>	<p>○</p> <p>具体的には重度化が進んだ利用者に関し、ご家族とも相談の上、併設特養に移転して頂いておりますが、その際先方の主任・介護責任者等と話し合いを設け適切に住み替えを行っております。 ★</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症の利用者とはいえ、個人の尊厳は必須且つ保たなければならない一番大切なパフォーマンスであると考え指導しておりますので記録の取り扱いも含め、プライバシーは確保されております。☆	職員ミーティング等で守秘義務や個人情報保護について説いております。 ☆
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症の程度に併せた介助、それに伴う会話がなされており機微の察知を含め努力しながら支援に当たっております。 ☆	的を外さないよう、今後もより一層の拘りが必要だとの指示を常に促しております。 ☆
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム日課や職員都合によつての生活は極力強い心掛けておりますが、緊急時や危険が伴う場合にはやむを得ない場合もあります。しかしながら希望に沿う形での暮らしは提供出来ていると思います。 ☆	我々も自分の希望が叶わないと若干のストレスを感じてしまいます。出来る限りそのような状況は作らないよう努めております。☆
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみに関しては本人の嗜好に沿って支援しております。理美容においては美容師の出張以来によって取り行っております。☆	○ こだわりの強い利用者に関してはご家族に相談し馴染みの店舗に言って頂くよう支援しております。 ☆
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理については併設特老の管理栄養士に手伝って頂いてますが、食の楽しみについては管理者が毎日早朝市場の競りに出かけますので利用者の嗜好や要望には答えられて自負しております。 ☆	何が食べたいですか?とよく尋ねますが、そんな会話の中から、または旬の食材の中から季節を感じて頂いております。 ☆
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご利用者一人ひとりの好き嫌いは概ね把握しており、それに沿った形で嗜好の楽しみに繋げております。 ☆	○ おやつに関しては去年に引き続き統一されている事に対して改善出来ていないので工夫を加えていきたいと考えております。☆

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の機能を十分に把握した上で排泄パターンに反映しております。特にオムツ等の使用については最大限まで介助力を活かし使用しない努力を行っております。 ☆		排泄パターンは職員間で情報共有の基、定期的なトイレ誘導にて適時にに行っております。 ☆
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には冬場は週2回・夏場は週3回と定めているも希望者については随時受け付けており、希望に沿って利用頂いております。☆		入浴が嫌いな利用者もいらっしゃるので、言葉巧みに誘うか、それが通じない場合は頼み込んで入ってもらっております。 ☆
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間はあるも、その日に応じて休みたくない利用者についてはTV鑑賞よりも会話をし安心して休んで頂いております。☆		安眠を確保して頂く為、お昼寝が長くならないよう軽作業やレクリエーション等で充実した日中を過ごしてもらうよう努めております。☆
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力に応じて洗濯物たたみや園芸等の軽作業を行って頂いておりますが、これについても決して強制するものではありません。レクリエーションについては利用者の要望を反映させながら楽しんで頂いております。 ☆		定期的に行っているドライブやピクニック等は馴染み深い思い出の場所や自宅の近所など良い刺激が得られ、更には記憶が蘇るような支援を心掛けております。 ☆
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金についての能力がおありになる方に限ってご家族からお預かりをし、必要な時に使ってもらっております。他の利用者に関してはご家族にご依頼し要望に答えるようにしております。 ☆		外出時における買い物や外食の回数を増やす努力をしております。 ☆
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課である散歩や定期的なドライブ・ピクニック等はもちろんながら定期受診の際、行ってみたい希望を聞き、出来る限り期待に沿えるよう努めております。 ☆		日々、利用者との会話内容を記憶に留めておき、次回の外出に反映させております。ただ、立地条件が畑の中でありますので一寸した買い物とかが不便で生活範囲が狭くなるような感覚になりがちですので、そういった部分も配慮し外出支援に努めております。☆
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとり行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	他回答と重複しますが、行ってみたい所については日々の会話の中から察知し、それに応じておりますが、ご家族にも報告しお手伝い戴いているケースも多々あります。 ☆		利用者全般に言える事は、面会が多いといった事があり、その時々において要望を伝え叶えて頂くようお願いしております。 ☆

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症の程度によって異なりますが、能力のある方は電話の使用はいつでも可能な状態にしておりますし、手紙についても同じく便箋等々も購入して頂き支援しております。 ☆	電話については相手方に迷惑の掛からない時間を選び使用して頂いておりますが、たまに30秒も話さず切られた時はとても可哀そうに思えますので、また機会を見て掛け直そうねとフォロー致しております。 ☆
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるように心掛けておりますし、面会者の印象としては入りやすいと好評を戴いております。また面会の際も全職員が気兼ねなく話せるよう指導を徹底してしますので居心地についても問題ないと思います。 ☆	多少の個人差は伴いますが、当ホームの面会率は高いので職員とも仲良くして頂いております。 ☆
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準に対する細かい文言の一つ一つまでは理解しておりませんが、拘束が最も禁じ得る行為である理解はなされております。 ☆	定期的な個人面接や意識調査を行い拘束に対する意識付けのニード換気を強めております。 ☆
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	さすが夜間帯においてはホームの鍵は閉めておりますが日中は何処からでも入ってこれる、または出ていけるよう全てオープンにしております。 ☆	役場の担当職員よりアドバイスを受け、居室の鍵を使用した事はなかったのですが、拘束と勘違いされる可能性を示唆し全て排除しております。 ☆
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守りは徹底されており、利用者の安心した暮らしに繋がっているものと確信しております。また、プライバシーについても気配りはなされており自尊心を傷つけるものではありません。 ☆	ともかく危険な状態及び環境に晒すわけにはいきませんので見守りの強化を図り、強制的な意味合いを緩和しております。 ☆
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	この件があつたので利用者が居室不在時において鍵は必要であったのですが、前項の事由で排除しております。ただ、危険な物品については管理室に置く等の環境整備を行っております。 ☆	何れにしても利用者全員が貴重品を持ち合わせておらず大事には至っておりません。これも見守りの徹底がなされているからだと思っております。 ☆
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	出題の全項目において経験により学習しておりますが、火災については経験がありませんので併設社福の訓練に参加し有事に備えております。 ☆	合同訓練では意味が薄れると感じており、単独訓練をお行おうと考えております。 ☆

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医療、特に緊急時対応はマニュアル化されており、これまでの多回数の経験も活かされ確立されていると思います。☆		併設特老看護師長と嘱託医との信頼関係による繋がりが十二分に発揮されていると思います。☆
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中は併設特老職員の協力を得るようになっており、夜間には緊急連絡網にて全職員が即駆けつけるのとご近所の皆さん、更には地域消防団の協力を仰ぐ事となっております。消防についてはホットラインも設置しており有事に備えております。☆	○	具体的な地域の協力を得ながらの単独訓練が必要であると考えたと共にそのものの計画を立案し実行に移したいと思います。☆
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者個々に起こり得るリスクについてはケアプランに明記されると共に、それ以外でも状況に併せてご家族に説明を加えております。☆		強制を行わずリスク解消を行う為に機微を察知しながら見守り優しく誘導できるよう努めております。☆
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	当然ながら利用者のご高齢であるので、出来る限り少々であっても体調変化を見逃さないように努めており、その後は医療連携にて双方の安心に繋げております。☆		情報の共有についても徹底しており、利用者個々の変化には敏感に対応できております。☆
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬については管理表を作成し利用者間での間違いや飲み合わせ等について看護師職員が詳細に管理しております。更には介護主任によって再チェックを行い完璧化を目指し努めております。☆		服薬については利用者個々の能力に応じて介助されておりますが利用者全員に見守り確認を行っております。☆
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便通においては管理表にてチェックを行い、主治医に相談の上、便秘薬処方や併設特老の管理栄養士に仰ぎ食物繊維の多いメニューに変更する等、体調管理の一端として位置付け取り組んでおります。☆		排便が順調になるまで徹底して支援を行っております。☆
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者個々のレベルに合わせてケアを行っておりますが、漏れがないようチェック表を作成し確認を行っております。☆		特に入れ歯の方が大半を占めるので、詳細に配慮し介助に当たっております。☆

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については併設特老の管理栄養士の協力をえており、更には体調不良者については主治医と相談の上、補助食品の摂取を行っております。水分摂取については各職員が利用者の状況観察を行いながら適時に補給をさせていただきます。 ☆	体調管理と共に食に関する事には神経を尖らせ管理に努めております。 ☆
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の疑いのある利用者については本人またはご家族に説明を行い、完治するまでの間居室にて過ごして頂いております。また、担当職員については接する度消毒を義務付けております。 ☆	居室にての生活がストレスとならないよう、拘束に繋がらないよう声掛けを頻繁に行う配慮に努めております。 ☆
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品管理については毎朝市場に仕入れに行ってる事から、衛生管理も含め新鮮な食材を提供出来ていると自負しておりますし、調理時に限らず職員の衛生管理、特に手洗いの徹底を義務付けている以上、食中毒の可能性も無いと判断しております。 ☆	食材の徹底洗浄、また仕入れ時の新鮮度には特に注意を払っております。 ☆
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	開放感ある趣を構築してきたつもりであって玄関周りに限らず常にオープンな体制を取っております。利用者と一緒に育てた花々を飾り安心して訪ねて頂ける環境にしております。 ☆	裏庭の芝生が生き付いてきており、利用者の憩いの場が増え喜んでおります。 ☆
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に限らず清潔第一をモットーとしておりますので異臭等が無く快適に過ごして頂いておりますし、生活感や季節感を醸し出す工夫としてレクリエーション担当者と利用者が月毎に掲示物を作成し楽しんでおります。 ☆	○ 誕生日には記念撮影を行い誕生プレートを掲示、利用者には喜んで頂いております。更に明るい環境を試行錯誤を行いながら取り組んでおります。 ☆
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際の利用者個々の席については認知症の程度に応じて振り分けておりますが、コミュニケーションを広げたい観点から時折席替えを行い工夫しております。 ☆	コミュニケーションの苦手な利用者については特に配慮し食事以外でも着席場所には注意を払い支援しております。 ☆



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には持ち込みは事由としていますが、ご家族からの相談等で馴染み深い物品については特に置いて頂いております。但し、これも個人差があり極端に殺風景な部屋もありますが過ごしやすいよう特にレクリエーション担当職員が工夫しております。☆		殺風景に思われる居室については過ごしやすいよう、または馴染めるよう工夫を凝らし掲示物を取り入れたりしておりますし、ご家族とも相談を行い住まいが演出できるよう努めております。☆
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホーム内においては換気・エアコン共完備していますが、異臭については方針の一端として極めて嫌う項目である為、掃除・換気徹底には特段の配慮を行っております。温度調節にも特に気配りを行い常に28度前後をキープしております。☆		朝一番の掃除タイムには、居室全ての窓を開け換気を行いながら保清に努めており、利用者のより良い生活環境を整えております。☆
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てにおいてバリアフリーの構造となっており通路に至っては手すりも設け自立を支援出来得る体制となっているが、活用の際に職員の見守り・誘導も効果的であります。☆		利用者個々の身体能力に応じて生活介助の中で機能回復に繋がるような訓練を励行しております。☆
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者個々の身体能力及び認知症のレベルについては把握しており、出来る事出来ない事の線引きを明確にして日々の介護に当たっております。☆		具体的には、居室・洗面所・浴室・トイレ等への移動の際は、声掛け励ましを行うであるとか、椅子やベット等への移乗の際も見守りを行いながら介助しております。☆
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りで特に変化があったのは裏庭の芝生が生え揃い、憩いの場が増えたという事ですが、他には園芸でありますとか散歩でありますとか楽しんで頂いております。☆	○	季節によっては寒すぎるまた暑すぎる時がありますが、この時期が利用者の皆さんほとんどが動こうとしないので、妙なストレスが溜まらないか心配しております。☆

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開所より特別養護老人ホーム併設型の利点を活かし医療面における看護師・嘱託医との連携体制が確立されており利用者また利用者のご家族から信頼を得ておりますが、その事に甘んじず緊急時等の経験を重ねる度に更なる充実を図っております。同時に清潔をモットーとしておりますので、利用者の身の回りの保清または居室を含む館内の掃除を徹底しており利用者の皆様には快適に過ごして頂ける環境を整えております。昨年後半より利用者へのサービス提供を改めて考慮しており、月間ごとに様々な分野にて目標を定め、利用者の機微の察知能力の向上を全職員が

共有し取り組んでおります。特にグループホームのホームの名の示しますような家庭的雰囲気構築に力を注いでおり、先ずは職員個々が、その雰囲気を醸し出せるよう夫々に工夫を凝らし頑張っております。このユニットに関しては寝たきりの利用者が大半を占めておりましたので、併設社福との相談を重ね重度者に限り特老への移動をご家族の同意を頂きながら推進してまいりました。その結果、本来のグループホームの趣が回復されつつあります。将来的にもこのようなケースが生じた場合、継続し推進して参る所存です。

利用者の生活においては館外の活動を重点的に配慮しており、これからも継続して行ってまいります。利用者のADL・認知症の程度によって個人差が生じますので全員に講じている訳ではありません。外出の出来ない利用者のサービス提供についても職員ミーティング及び運営推進会議等で検討模索中であります。従いまして総じて重点項目としておりますのは、利用者も職員も一日一日を大切に過ごしていく事にあります。私達が利用者個々に対して、何をしてあげられるか、またどこまでしてあげられるのか。QOLを本気で考え、日々の生活に反映にし、定着していけますよう鋭意努力を行ってまいります。